

まっちゃんぐ

街 ing いばらき NEWS

No. 230

2022年

4月号

(毎月25日発行)

長谷川誠子

3月例会 議事録

日時: 令和4年3月3日(木) 15:00~17:00 <昨年6月より15時開始に変更しています>

場所: 川本本店 茶論[縁](サロン「えん」)

出席者 10名 川本 阪田 笹嶋 杉田 鈴木 清野 南野 長谷川 牧 吉田

- 1 4月5日(火)^{ならびがおか}双ヶ丘お花見の参加者を確認しました。街 ing 13名 その他 15名 計 28名
街 ing の参加者 川本 河村 阪田 阪田 笹嶋 佐藤 杉田 清野 南野 長谷川 牧 松岡 吉田
JR 茨木駅 8時 30分集合
- 2 5月24日(火) 大東市を訪ねます。2ページに案内書を掲載しています。申し込み締め切り
3/31(木) ぜひご参加ください。現地のガイドさんに案内していただきます。
- 3 7月4日(月)嵐山散策 昼食はアユ料理ですごいらしい。5月の例会で決めます。
- 4 10月3日(月) 宇治平等院周辺を散策 昼食は普茶料理(精進料理) 個人ではなかなか行けない
料亭とのこと。5月の例会で決めます。
- 5 11月に紅葉狩り 12月の忘年会を予定しています。
- 6 安威川ダムが3月に完成。周辺整備を進め 2024年3月に観光リクリエーション地区がオープンし
ます。2年後。完成すれば街 ing でも行きたいです。
- 7 次回の例会は5月12日(木)第二木曜日になります。引き続き
15時開始です。



街 ing 分科会

門前町・大東市の魅力を探ろう

「大東市」は大阪市の東部にあることからその名が付けました。奈良との交通の要所として古くから栄えた町です。野崎観音は一番の観光スポット。この大東市を現地のガイドさんに案内していただきます。街 ing で大東市を訪ねるのは初めてです。阪急淡路で乗り換え、おおさか東線の JR 淡路駅も利用します。ぜひ、ご参加ください。

記

1 実施日 : 2022 年 5 月 24 日(火)

阪急茨木市駅 改札口 9 時 00 分集合

- 2 日程 集合後 快速急行乗車 淡路および放出^{はなてん}で乗り換え 住道^{すみのどう}下車 450 円
10 時 00 分～12 時 30 分 町並み探索 船乗り体験
12 時 30 分～13 時 30 分 :現地の商店街で食事 その後野崎観音
15 時頃 現地解散 歩行距離約 3 キロ
- 3 参加費 400 円 ガイド料と船乗り体験代 昼食代・交通費は各自払い

- ① 昼食時のビールなどは各自払いをお願いします。提供しているかは当日要確認
- ② 参加者への会員補助はありません
- ③ 船乗り体験は当日の状況により中止の可能性があります。
- ④ 雨天決行。
- ⑤ 昼食場所は現地にたくさんあります。
- ⑥ コロナの状況により、予定が変更になることがあります。

参加される方は、返信メール 電話にてご連絡ください。

連絡先 阪田 072-627-3480 または 08014369881

申し込み締め切り 3 月 31 日(木)

以上

徒然草(つれづれぐさ)

阪田 浩

街 ing のお花見は 4 月 5 日(火)、京都・双ヶ丘^{ならびがおか}周辺です。双ヶ丘の名は三つの丘が北から南へと一直線に連なっていることに由来しています。徒然草の作者、吉田兼好はこの双ヶ丘に居を構えて徒然草を執筆しました。この「徒然草」というタイトル。植物と間違えそうな名前ですがこの「草」は「草子」の略、「草子」とはノートという意味です。また「徒然」とは、「やるべき事がなくて、手持ち無沙汰なさま」。「徒然草=ヒマつぶしノート」となります。ひまつぶしで後世に残る作品を残せるのですから、その才能やたいしたものです。兼好は鎌倉時代から室町時代を生きました。享年 68 歳。55 歳のときに足利尊氏による室町時代が発足しています。

書き出しの現代語訳

することもなく手持ちぶさたなのにかまわず、一日中、硯に向かって、心の中に浮かんで消えていくとりとめもないことを、あてもなく書きつけていると、思わず熱中して、異常なほど、狂ったような気持ちになるものだ。

古文の授業で習いましたね。

兼好は仁和寺がある双ヶ丘に居を構えていましたので、仁和寺の法師がたびたび登場します。

「仁和寺の僧」の現代語訳

仁和寺にいた、ある法師が、年をとるまで石清水八幡宮をお参りしたことがないことを情けなく思っていた。ある時思い立ち、一人、徒歩でお参りにいった。山麓にある極楽寺と高良神社をお参りし、八幡宮へのお参りは、これだけだと思ひ込み帰路の途についた。

帰った後、仲間の僧に向って、「ずっと心に思っていた八幡宮へのお参りを果たせた。聞いていた以上に八幡大神の御神威を感じた。ところで、他の参詣者が皆、山へ登っていったが、何か山上にあるのだろうか、行ってみたいとは思ったが、お参りすることが本義であるからと思い、山上までは見に行かなかった。」と言った。小さなことにも、先達^{せんだち案内者}は欲しいものである。

石清水八幡宮の本殿は山の上にあるのに、麓^{ふもと}の寺社だけを見て「これが石清水八幡宮だ」と勘違いして帰ってしまったという話です。仁和寺の僧といえば、当時のエリート。そんなエリートが思い込みで失敗したことを、面白く書いています。

街 ing のお花見では、先達をお願いしています。5 月 24 日(火)に実施する大東市散策でも、地元のガイドさんに案内していただきます。思い込みでの失敗はありませんので、ぜひご参加ください。

奈良大和路(西ノ京編)—2— 天平の薨・唐招提寺金堂

牧 彰

・・・大きな鴟尾を載せた大屋根の下には、吹放しの8本の柱が並んでいる。いつ来ても、この円柱の形は美しい。法隆寺を思い出すような、ふくらみのある柱だったし、ギリシャの建物にあるような形なのである。

軒の深い金堂の横を歩いて、裏側にまわった。

鼓楼も講堂も、あのときから修理したものらしく、朱の色が新しかった。この位置から見る唐招提寺の布置くらい美しい眺めはない。なにか雅楽のリズムを聴いているような感じであった。

松本清張『球形の荒野』

薬師寺玄奘三蔵院を後に、唐招提寺目指して一路北へ。薬師寺から唐招提寺へと至る5～600mほどの道のりはかつて西ノ京観光の長閑な散歩道だったが、昨今は行き交う数多の車両に少なからず煩わされる。

おそらく、唐招提寺金堂に続いて薬師寺東塔の解体修復工事が延々と続き、西ノ京への観光客が滞っている内に舗装整備されたのだろう。無機質な舗装道路を歩きながら、昔日の感慨に耽ること一頻り。奈良・西ノ京も、いつも間にか様変わりしたものである。

かつて、道すがら立寄った“そば切りよしむら”のかき揚げ蕎麦（細打ち十割蕎麦）は、とても美味だった。でも、昼食時の道にはみ出るほどの長蛇の列には些か戸惑わされる。



大らかな天平文化を偲ばせる金堂



優雅な王朝文化漂う御影堂

程なく律宗総本山・唐招提寺門前に着く。この辺りは昔と少しも変わらない。南大門は昭和35年(1960年)の建立と知るが、創建当時の礎石上に、単層5間3戸切妻造で復元。南大門の処々には節の浮き出た材が目立ち、東大寺転害門にも紛う武骨な様相を呈していて、如何にもこの稀有な天平寺院に相応しい。

南大門から一步踏み入ると、辺りの空気が一変する。恰も、天平期の時間・空間が此処に封印されているかのようだ。掃き清められた参道の先に、単純にして大らかな大屋根と吹放しの列柱も清々しい唐招提寺金堂！

奈良時代創建の寺院は数多あるが、現存する金堂の唯一の遺構！鑑真の弟子・如宝(来日した碧い目の青年僧)が師の死後に建立。以後修復を繰り返しながら、近年は平成12年(2000年)から10年間の歳月をかけて全面的解体保存修理を終える。

かつて南大門と金堂の間に中門が建ち、金堂と回廊で繋がっていたが、今は遮るものはなく、来訪者の視線は直接金堂の全容を捉えることになる。

金堂は、桁行7間、梁間4間で、正面を全面吹放しとし、柱間は中央から両端に向かって徐々に狭まる。柱は凡そ直径60cmと太く、下から2/3は真直ぐで、残りの1/3は上方に向かって細くなる。古代ギリシャ神殿のエンタシスにも似た胴張の列柱。屋根は寄棟造本瓦葺きで、大棟の両端に平成大修理で新たに造った鴟尾を飾る。

修理前は、西側に創建当初の、東側に鎌倉時代の鴟尾を載せていた。平成の修理で、旧鴟尾は損傷・腐朽が著しかったので、奈良時代の西側鴟尾に倣って新たに制作する。旧鴟尾は、現在新宝蔵に展示されている。

内陣の仏像(全て国宝)は、中央に盧舎那仏座像、向かって右に薬師如来立像、左に千手観音立像が安置され、本尊の前方両脇には梵天・帝釈天、仏壇4隅には四天王が配されている。

一般に千手観音の手は42本だが、此処（他に、藤井寺と壽宝寺）では実際に千本の手を付いている。また、金堂4隅軒先にユーモラスな表情の隅鬼が上方の荷重を黙々と支えている。

また、金堂正面の左脇には、会津八一の歌碑がさり気なく佇んでいる。

おほてらのまろきはらのつきかげをつちにふみつつものをこそおもへ（会津八一）

金堂の基壇に上がると、誰もがみな天平の円い列柱の温もりに触れて、会津八一の歌に心を重ねるのである。

さて、大らかな天平の^{いひか}震・金堂を心の^{おもむ}赴くままに^{くわつちんぎ}観賞した後は、四方を深い樹林に囲まれた広大な唐招提寺境内に点在する遺構・史跡を順次巡るとしよう。

金堂の背後に講堂（国宝）。元は平城宮の朝集殿だった建物で、現存する平城宮唯一の遺構。屋根は切妻造から入母屋造に変更し、吹放しだった柱間に板扉や連子窓を加えて、講堂としての風格と体裁を整えたようである。

金堂と講堂に挟まれて、東に鼓楼（国宝）、西に鐘楼がある。本来仏舎利を納める鼓楼は、舍利殿とも呼ばれていた。境内で唯一の重層入母屋造で、上層・下層共に板張り床に高欄を施し、“うちわまき”で知られている。

僧たちが起居する僧房は東室だけが残り、その南部分を鼓楼に納められている仏舎利を礼拝する礼堂（重文）として、寺の諸行事はすべて此処で行われる。北半分は僧房で、礼堂との間に1間分の馬道（通路）がある。

この馬道を東に抜けると、^{あざくら}校倉造の建物が2棟あり、南は経蔵、北は宝蔵。いずれも天平建築で国宝。特に、経蔵は本邦最古の校倉である。

唐招提寺発祥を物語る戒壇は境内の西端にあり、^{おほいどう}覆堂はなく基壇上に石造の台形壇が築かれ、最上壇に^{ストウパー}宝塔を据えている。築地塀に囲まれた門越しに拝することになる。

鑑真の廟は境内東端に築かれ、^{さむら}鬱蒼とした樹叢に包まれている。小門を潜ると、緑苔の小径を通り池に架けた橋を渡った正面に、こんもりした円墳。奈良時代の名僧で、墓が特定されているのは極めて稀。前面南側に礼拝石と石段を設け、苔むした丘上に^{ほうきょういんとう}宝篋印塔が佇んでいる。

廟門前の道を少し西へ辿ると、^{みえいどう}御影堂（重文・江戸時代）。通常門を閉ざして、土塀越しに優美な^{ろくしう}緑青色の屋根を見るに留まる。御影堂は興福寺別当一乗院の御殿であったが、明治期には奈良県庁舎・裁判所庁舎として使われるに至った。その後昭和39年（1964年）に唐招提寺境内の現在地に移築され、当初の姿に復元される。

御影堂には、本邦最古にして最上級の肖像彫刻“鑑真和上座像（国宝）”がある。静かに瞑目している顔には、過去・現在・未来への幾多の想いを秘めた表情がみられ、内なる心がこれほど滲み出ている作例はない。その^{けつたふ}結跏趺坐して瞑想する姿に、単なる彫刻の域を越えた深い精神性が感じられるのである。

“鑑真和上座像”は、鑑真の命日（6月6日前後3日間）に一般公開。但し、通常は、本願殿（旧開山堂）にて、誰でも“鑑真和上座像（模造品）”を拝することができる。

辰殿前には、古式床しく一對の左近の梅（9世紀に梅から桜へ）、右近の橘。また、昭和56年（1981年）に東山魁夷が専心制作した障壁画が鑑真和上に奉献されている。

唐招提寺の天平から平安、鎌倉時代の優れた仏像の中でも、新宝蔵の首と両手を失った“如来形立像”に大いに魅せられる。

この“唐招提寺のトルソー”は、胸から腰、両腿の量感がよく表現されていて、体軀に刻まれた衣文の写実性も素晴らしい。石造ならぬ木彫の古代ギリシャ彫刻を垣間見る想いである。

「百聞は一見に如かず！」



鑑真和上座像

如来形立像

境内全体を^{ワイド・ビュー}広角に見晴らし、復元なった諸堂の色彩も^{きら}煌びやかな国家仏教・薬師寺伽藍とは全く対照的に、此処唐招提寺は古代の森の静寂の中で、仏教の原点・戒律（鑑真の不屈の精神）を厳かに伝えている。



キリシタン自然歩道から「自然」が消える

杉田 宗三

キリシタン自然歩道は“阿為神社”最寄りの「安威バス停」から“見山の郷”最寄りの「長谷口バス停」までの 12.2km のコースで、茨木市観光協会が 2008 年 3 月に茨木自然歩道 8 コースを設定した中の 1 つです。

ただし設定時点で既にサニータウン内や府道忍頂寺福井線の拡幅工事などで中間部分は「歩道」とは言えない一般道路になっていましたが、その後更に彩都はなだ（山手台 7 丁目と大岩集落の間）の開発や新名神高速道路と茨木千提寺 IC の開発で更に歩道が少なくなって行きました。

そこに昨年 12 月から彩都東部地区 A 区域開発が着工され、自然歩道らしさが残っていた最後の東福井から山手台 3 丁目までの山林部分が閉鎖され樹木が伐採され自然らしさがすっかり消えてしまい「自然歩道」とは言えないような状況になっています。ここに現状を写真で紹介します。



着工前



着工後

キリシタン自然歩道の山手台 3 丁目の出入口



3G サービスを提供する KDDI、ソフトバンク、NTT ドコモの MNO3 社では、契約数の減少や経営資源集中、周波数の有効活用などを理由に今年から 3G サービスを順次終了させます。

KDDI は今年 3 月末で終了させ、ソフトバンクは来年 1 月、NTT ドコモは 2026 年 3 月末に終了させると発表されています。

3G とは携帯電話における通信規格を意味し、第三世代を表す「3rd Generation」の略称です。

通信速度が遅いというデメリットがあり動画を視聴するようなスマホには不向きですが、電波が届く範囲が 4G よりも広く、多くの場所で通信できるという特徴があるために、低速のデータしか扱わない場合は 3G 回線を依然使用している機器はかなり多く、ガラケー専用回線ということではありません。(4G は 3G の 10 倍近い速さ)

初期のスマホも 3G を使っていましたが、最近では多くの人々が既に 4G、5G の契約に移行しています。このため利用者が少ない 3G のネットワークを稼働させておくのはコスト面でとても無駄でありまた、3G に割り当てられた周波数帯をより有効活用するため、通信規格の世代交代は 1G、2G でも実施されている必要不可欠な措置です。

3G 停波で“ケータイ”が終了するわけではない

3G サービスが終了すると従来型ケータイ（いわゆる“ガラケー”）の全てが使えなくなる……といった報道も見ますが、ここには誤解が含まれています。従来型ケータイの全てが使えなくなるわけではありません。

LTE と VoLTE に対応したケータイなら、3G 停波後もデータ通信と音声通話を使用できます。

ただ LTE 対応でも VoLTE に対応していないと音声通話が利用できなくなるので注意が必要です。

【注】・LTE とは 3G より後に登場した通信規格で、長期的進化を意味する言葉「Long Term Evolution」の略称です。

- ・VoLTE（ボルテ）とは、スマートフォン（スマホ）や携帯電話の LTE（Long Term Evolution）ネットワーク上で音声通話を実現するために標準化団体の 3GPP（Third Generation Partnership Project）で制定した標準規格のことです。

LTE はもともと、高速なデータ通信を実現するために誕生しました。この LTE 上で音声もやり取りするために、少し遅れて登場したのが VoLTE です。



次回『街ing いばらき』例会のご案内

日時：2022年5月12日(木) 15:00～17:00 4月の例会はありません

場所：川本本店 茶論「縁」(サロン「えん」)

住所：茨木市上泉町6-29 TEL:072-624-5552

- 内容：1. 4月5日(火)お花見の振り返り
2. 5月24日(火)大東市散策の進め方
3. 6月以降の行事 情報交換 その他

『街ing いばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年3回程度の街歩きを行なっています。参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000円 会費 年間2,000円(一か月170円)



《 編集後記 》

- 4月5日(火)に双ヶ丘・仁和寺周辺でお花見を実施します。28名の参加申し込みがあり満員、現在キャンセル待ちの状態です。昼食代が5,000円とこれまでよりは高めなのですが、多くの参加をいただきました。コロナで外出が制限される中、たまには贅沢気分をという潜在意識を感じています。
- 5月24日(火)に大東市を訪ねます。2ページに詳細。長谷川さんに企画していただきました。茨木とは違った町並みと食事が体験できるとのことです。ガイドさんの解説付き。申し込みをお待ちしています。
- 街ingの行事は任意・自由参加です。事故・傷害などについては、自己責任で対応ください。街ingでは事故に対して、一切の責任を負いません。

《 編集・発行 》

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22
Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp
街ing ホームページ : <http://www.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2022年3月現在での訪問者は9,562<前月比22の増加>となっています。

